

柳城

R y u j o

柳城学院報

第60号

発行所：学校法人 柳城学院

〒466-0034 名古屋市昭和区明月町2-54
TEL.052-841-2635 FAX.052-841-2697

発行者：洪澤 一郎

2015年7月1日



昭和17年3月 柳城幼稚園 卒園児の合奏 杉本クミ子氏寄贈(卒園生)

建学の精神 「愛をもって仕えよ」

目次

理事長からのメッセージ	2
学長からのメッセージ	3
聖書のことば	4
第三者評価 適格認定	4
2014年度 東日本大震災 復興支援ボランティア活動	5
大学間連携共同教育推進事業 〈保育コンソーシアムあいち〉	5
幼児教育研究所	6
学外合同ゼミナール「夢ゼミ」	6
「学士の学位授与に係る 特例適用の認定」についての報告	6
2014年度就職状況	7
マーガレット・ヤング基金のご報告	7
博士学位取得	7
全国保育士養成協議会会長より表彰	7
2016年度入試情報	8
学院人事	8
役員人事	8
後援会ニュース	9
同窓会ニュース	9
附属柳城幼稚園	10
附属豊田幼稚園	11
附属三好丘聖マーガレット幼稚園	12
2014年度会計報告	13
新任教職員紹介	14
柳城祭	15
りゅうじよう子どもフェスタ	15
オープンキャンパス	16
附属幼稚園情報	16
特別給付奨学金表彰式	16

「戦後70年」と柳城

はじめに

今年度も3カ月が過ぎましたが、学生の皆さん、園児の皆さん、そして教職員の皆さんはどのようにお過ごしでしょうか。すっかり学生生活や幼稚園生活に慣れたでしょうか。あるいは、まだ新しい環境に戸惑っている方もおられるでしょうか。いずれにしても、皆様の今年度の歩みの上に神様のお導きをお祈りいたします。

戦時中の柳城

さて、今年度は戦後70年の年に当たります。今から70年前の1945年(昭和20)8月、日本は太平洋戦争に敗れ、終戦を迎えました。柳城では昭和15年にすべの宣教師がカナダに帰国し、日本人の手によって保母養成所(保育専修学校)と幼稚園の経営がなされるようになりました。

昭和20年3月の米軍機による名古屋空襲では白壁町にあった保母養成所と柳城幼稚園が焼失し、一時、一宮市のお寺に学校が移った

こともありました。しかし、そのお寺も空襲で焼けてしまったそうです。

また、「柳城学院百年史」によりますと、同じ年の7月には愛知県庁へ「学徒隊結成届」が提出されています。正式には「柳城保母専修学校学徒隊」と言いました。「学徒隊」と言いますと沖繩の「ひめゆり学徒隊(部隊)」が特に良く知られています。沖繩師範学校女子部と県立第一高等女学校の教師・生徒合わせて240名が沖繩陸軍病院の看護要員として動員され、負傷兵の看護に当たり、240人のうち136名が米軍の攻撃や集団自決で死亡しています。

柳城の場合は「女子挺身隊(太平洋戦争下の労働力不足を補うため組織された女子勤労動員組織で1年間の勤務義務があった。)」に徴用されるのを避けるためにそのような届を出したようでしたが、もし、戦争が長引いていたら柳城生も学徒として動員され犠牲者を出していたかもしれませぬ。そういう時代でした。

戦時中の宣教師たち

一方、カナダに帰国した宣教師たちはどうしていたのでしょうか。これは昨年の学院報に書かせていただいたことですが、柳城で働いていた先生たち「ポーマン先生、ホーキンス先生、ハロビン先生」は、収容所に収容されていた日系人のために収容所内に学校や幼稚園を組織し、礼拝や教育、生活面での多大な援助を惜しまなかったそうです。「愛をもって仕えよ」という柳城の精神を、戦争という異常な状況の中でも見事に実践しておられたのです。

戦後70年と柳城

終戦と共に柳城の戦後が始まります。建物も何もかも焼失してしまっていましたので、聖公会以外の教会や戦災を免れた旧瑞穂幼稚園を使つての授業が再開されます。そして、1950年(昭和

25)9月に、今のこの場所に新しい校舎が建てられ、1953年には短大の認可を得、いよいよ柳城の戦後の歩みが本格的に始まつて行くのです。

戦争中の困難を乗り越え、戦後の発展を支えて来られた諸先輩方のご努力には頭の下がる思いです。それにしても平和な時代に教育を受けることのできる素晴らしい世を今わたしたちは感謝しなければなりません。

しかし、忘れてならないことは、日本は戦争の被害者ではありませんが、それ以上に加害者であったという事です。日本が外国に、殊にアジアの国々に大きな戦争被害を与えたことを忘れてはなりません。戦後70年を迎えた今、しっかりと過去の歴史の事実に向き合い、そこから学ぶことが求められているのです。

理事長
洪澤 一郎



戦後70年、日本は戦争をしてきませんでした。これは大いに誇るべきことです。日本国憲法のお蔭です。日本国憲法は「平和憲法」と言われます。しかし、ある沖繩の方が、沖繩にとつて日本国憲法は「平和憲法ではない」と言っておられます。戦後70年経つても沖繩から基地はなくなり、逆に新しい基地さえ作られようとしています。確かに、沖繩は平和だとは言えないのです。

イエス・キリストは「平和を實現する人々は、幸いである。」(マタイ福音書5:9)と言われました。その御言葉をしっかりと心に憶え、平和な世界の実現を目指して行きたいと思ひます。

2015年度の重点方針

1 建学の精神の深化・具現化

柳城学院が存続する限りその建学の精神、すなわち「愛をもって仕えよ」という精神的モットーは不変である。いっぽうその時代にふさわしい、しかも本学が果たさなければならぬ使命を読み解き、そしてそれをさらに深化し、教育と学校運営に具現していくことが必要であろう。言うまでもなく建学の精神の核心は、第1に、こども・高齢者・障がい者に愛をもって仕える人間ならびに専門的職業人を育成であり、第2に、学生に愛をもって仕える教職員として働くことである。

そのためにはキリスト教主義の教育理念のもと、本学倫理綱領の基本である個人の尊厳、人権の尊重、品格ある言動が遵守されなければならない。さらに、現代の過激な競争（格差）社会にあつて物質のみならず精神の貧困化が進行する中で学生たちがこれに抗して人と人を愛をもって結ぶ共生（社会）創造の担い手に育ち合う学校を目指したい。「自」と他者の共同（まじわり）が人格の本質であること、又かかると同を成立せしむるものが「愛」に外ならない」からである（糸賀一雄『愛と共感の教育』）。

2 教育改革—授業改革を中心に—
これまでの（少なくとも過去7年）本学の教育改革では、本格的な授業改

革は未着の分野であった。かねてより小中学校では「分かる授業づくり」が取り組まれてきた。今や大学・短大においても分かる授業づくりはますます必要視されているのではないだろうか。そのために、本学でもお互いの授業を観察しながら問題点を相互に見出し合い、より充実した授業を創造・開発したいものである。具体的には、授業公開をはじめ授業アンケート結果についての意見交換、満足度調査等のデータをもとに授業分析・研究を重ねた授業改善（授業形態、授業運営、教材教具等）に着手したいと思う。こうした授業研究や授業改善をベースにカリキュラムの構造化・体系化（教養科目と専門科目及び専門科目内の各科目間の関連づけ、とくに表現・5領域の総合化、履修の順次性・合理性等）がこれまで以上に実現されるに違いない。

3 入試改革—総力を挙げて—

本年度の入学者は残念ながら定員を大幅に下回った。当該の委員会・課の尽力にもかかわらずである。入試広報業務を当該の委員会・課にほとんど依存しきつてきたこれまでの取り組みは、大いに反省しなければならぬ。しかも本年度は予算の縮減と各種の事業の縮小も余儀なくされた。学内外の関係者のみなさんには心からお詫びする次第である。

少子化の進む中、18歳人口の減少は顕著となっている。保育の世界でも大化傾向は次第に短大への進学者を少数化させている。入試戦略の再構築（目標とする学生像、適性・基礎学力、選抜方法等）が求められている理由はそこにある。そこで本年度は、全教職員による学生募集活動、高校とのリンケージの強化、広報、特に入試広報の拡充（本学の知名度向上、より有効な情報提供）等に力を入れ、定員充足を目指して教職員の総力を挙げて取り組むこととする。

4 新たなキャンパス整備に着手—学生の視点からのアメニティーづくり—

学生募集が芳しくなかった原因は、キャンパスの老朽化、特に学食がないこと、そして本学のブランドポリシーの欠如（入試広報課の分析）であった。上記の諸点を克服するために、あらためて学生・教職員へのニーズ調査を実施し、それをもとにキャンパスのブランドデザインを再設計し、特に1号館3階建校舎中心の改築計画（学食、保育施設、キリスト教センター等を含む）をつくりたい。学生の視点を最重視し、しかも四大化をも視野に置いたアメニティーづくりを目標に、2017年度には着工し、2018年度には完成に至るように実行可能な計画づくりを目指す。

5 ステークホルダーとの協力関係の強化

柳城にとって最も直接的なステークホルダーは同窓会にほかならない。近年、多くの大学（国公立、私立の違いなく）において大学経営への積極的な参加と寄与がますます求められるようになった。本学にあつてもけつて例外ではない。学校運営をはじめ、教育活動、就職支援、学生募集、同窓会活動の活性化、とくに卒業生の再就職や学び直し（リカレント学習）など、本学と同窓会との協力・協働の取り組みをもっと深化し、拡大したいと思う。ついで短大と附属幼稚園の一層の協働である。その成果は言うまでもなく双方に大きな収穫をもたらすはずである。昨年度は、実習、園長等の授業参加、共同研究など、いくつかの点で連携の兆しを見ることができた。本年度も継続的な前進を期待したい。さらに間接的なものとしては、幼児教育・保育関係機関・団体との連携強化である。この点では保育コンソーシアムあいちの実績にも学びつつ、こうした諸機関・団体とのネットワークを構築することにした。保育・幼児教育界に柳城の



学 長 新海 英行

プレゼンスを知らしめるチャンスとしても努力目標としたい。

6 ガバナンスの強化充実

まず理事長・学長のリーダーシップの強化充実である。そのために理事会と教授会・各種委員会の連携・協働をこれまで以上に重視する。副学長制度の新設は理事等と教職員の協働関係を強化するうえで、そして総じてガバナンスの強化充実にとって有効な役割を果たすものと期待している。さらに法人事務局の機能をより強化することに、附属幼稚園を含む柳城全体の経営分析（将来予測・現状調査等）、広報・広聴など、よりの確なガバナンスを可能にするために欠かせない業務が実現できるものと考えている。

上記の6点の重点方針の表現に向けて、柳城内外の関係者のみなさまの御理解、ご協力を切にお願い申し上げる次第である。

聖書のこ と ば

「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。」
ヨハネによる福音書第15章12節



この言葉は、イエス・キリストが残した言葉です。人を愛する、ということは良いことだし誰でもそうしたいと思うことだと思えます。わざわざ掟などという厳しい言い方をしなくてもよさそうです。

しかし、よくよく考えてみると実際には、そんなに易しいことでもなさそうです。親子、兄弟姉妹、友人との関係を考えてみると、いつも仲が良くても一度も喧嘩をしたことがない、喧嘩までは行かなくても意見の相違が一度もないという関係は、実際にはなかなか容易ではありません。親子や夫婦の関係でも、ちょっとしたことがきっかけでしばらくは口も利かないとか、顔を見たくない、などといった

あつたとしても「互いに愛し合う」ことができるかと考えてみると、そこには、時には相手の言葉や行為に忍耐したり、「今はわかってもらえなくてもいつか分かつてもらえる」と思つて将来に希望を託したり、と精神的に様々に耐えることも必要になつてきます。ですから、イエス・キリストはあえて「掟」という言葉まで使っているのです。それも「わたしがあなたがたを愛したように」と言つて。

ことが起こるのもそんなに珍しいことではありません。まして、学校とか会社とか、更に広い枠における人付き合いの場合、あるいは大きくは国と国との関係についてとなると仲良く付き合うというのは容易ではありません。

こうして考えてみると「互いに愛し合いなさい」ということは、実際には、そんなに易しいことではなさそうです。いやなことがあつても時には我慢したり、相手を赦したりといったことが必要になつてきます。ですから、同じ聖書の中でパウロという弟子が書いた手紙の中に「愛は忍耐強い」(4節)から始まつて「すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。」(コリントの信徒への手紙第13章7節)といった一見すると、およそ愛することに似つかわしくない言葉が出てくることにもなります。

誰とでも、どんな時にでも様々な思惑の違いがあつても、年齢や貧富や社会的地位の違いなどが

あつたとしても「互いに愛し合う」ことが出来るかと考えてみると、そこには、時には相手の言葉や行為に忍耐したり、「今はわかってもらえなくてもいつか分かつてもらえる」と思つて将来に希望を託したり、と精神的に様々に耐えることも必要になつてきます。ですから、イエス・キリストはあえて「掟」という言葉まで使っているのです。それも「わたしがあなたがたを愛したように」と言つて。

あつたとしても「互いに愛し合う」ことが出来るかと考えてみると、そこには、時には相手の言葉や行為に忍耐したり、「今はわかってもらえなくてもいつか分かつてもらえる」と思つて将来に希望を託したり、と精神的に様々に耐えることも必要になつてきます。ですから、イエス・キリストはあえて「掟」という言葉まで使っているのです。それも「わたしがあなたがたを愛したように」と言つて。

名古屋柳城短期大学
チャプレン 司祭 田中 誠

第三者評価 適格認定

名古屋柳城短期大学は、平成26年6月に、一般財団法人短期大学基準協会に対して第三者評価を受けるための申請を行い、平成27年3月12日付で、同協会より適格の認定を受けました。今回の第三者評価を受けるにあたり、ALLO(第三者評価連絡調整責任者)という役を務めさせていただいた。本学は、7年前の平成19年度にも、第三者評価を受けたが、今回の評価に関しては、大きく基準の変更があり、具体的には、「建学の精神と教育の効果」「教育課程と学生支援」「教育資源と財的資源」「リーダーシップとガバナンス」という4つの基準によって行われることとなった。

平成25年の8月には、ALLOを対象とした説明会が行われ、そこで受けた説明に基づきながら、平成25年9月から平成26年6月までの約10カ月の間、自己点検・評価委員会を中心に報告書を作成した。その後、平成26年10月には、報告書に基づいて、四人の評価員による2日間の訪問調査が行われた。

適格の認定については、細かい点での指摘はいくつかあったものの、五つの「すぐれた試みと評価できる事項」を始め、全体としては好ましい評価をいただくことができた。このようなことが実現できたのは、柳城の関係者が、限られた期間で報告書の作成のために尽力したからであることは言うまでもないことであるが、その背景には、17年にわたつて、本学が、自己点検・評価委員会を中心に、年度ごとの「名古屋柳城短期大学の現状と課題」を作成し続けてきたという積み重ねがあつたことも覚えておきたい。また、今回、短期大学基準協会から適格の認定を受けることができたものの、私たちにとつての第三者とは、短期大学基準協会だけではなく、これから保育の道を歩み始めようとしている高校生(およびその保護者)でもあり、また、本学が送り出していく就職先の幼稚園であり保育所であり福祉施設でもあるということも肝に銘じておく必要がある。



平成27年3月12日
一般財団法人 短期大学基準協会
理事長 関口 修

(菊地 伸一)

2014年度 東日本大震災 復興支援ボランティア活動

キリスト教センター 村田 康常

東日本大震災が東北地方を中心に甚大な被害をもたらした2011年から、早くも4年が経過しました。しかし、被災地では今なお仮設住宅の生活を余儀なくされている多くの方々がおられ、復興に向けたさまざまな活動が続けられています。名古屋柳城短期大学キリスト教センターでは、震災の年から続けられてきた復興支援のボランティア活動を昨年度も実施しました。

被災地でのボランティア活動は、8月17日―20日のA日程と、9月1日―4日のB日程の2回、のべ18名の学生と6名の引率教員によって「被災者支援センターしんち」を拠点にして実施されました。スタッフの皆さんに被災地の現状を案内していただく「被災地巡礼」にはじまって、仮設住宅での生活を余儀なくされている被災者との交流や、宮城県山元町の「ふじ幼稚園」の保育に参加させていただく機会を得



仮設住宅での交流活動 (新地町)



ふじ幼稚園での保育参加 (山元町)

て、昨年度も名古屋と被災地で「心のキャッチボール」を継続することができました。センターしんちの現地スタッフとして私たちが迎えてくださった被災者の方々は、激しい地震に続いてあの巨大な津波が自宅を襲い、家族や知人を失うという大きな喪失体験を語ってくださいました。それは、震災から3年余りが経過してはじめて語ることでできた言葉だったそうです。自宅再建に向けた歩みややっとはじまった仮設住宅の方々がおられる一方で、原発事故によって避難生活を強いられている方々の仮設生活は長期化しています。震災は決して過去のものにはなっていない。そのことをあらためて実感しました。

この活動を通じて、被災された方々を支援するはずの私たちが、その支援活動を通じて逆に支えられ、助けられるような場面にも出会いました。短大で保育を学んでいると自己紹介した学生たちに、仮設住宅の方々が励ましの言葉をかけてく

だしました。震災の風化がすすむ中で、支援活動を継続するための精神的・経済的な支えとなったのは、「リチャード・A・メリット基金」からいただいた多大な支援でした。本学の第4代学長であったメリット先生のご遺志が、基金の方々の理解と援助を通して、私たちに励ましてくださっていることを感じます。

学内では、毎月、ケーキを焼いて支援センターで開かれる茶話会に届ける「チーム・パティシエ」の活動を継続しています。実習や現地での活動が重なって、ケーキを作ることができなかった月が何度かありましたが、隣接する日本聖公会名古屋聖マタイ教会の皆さまや、本学が様々な場面で利用させていただいている洋菓子店「ミシェル・ケーキ」の方々が、無償の支援を申し出てくださってケーキを作ってくださいました。また、東北の被災地支援活動を続ける名古屋短期大学保育科のボランティアサークル「みんなに笑顔をとどけ隊」が、相互交流の機会を作ってくださいました。この交流では、それぞれの活動を紹介して情報を交換しあい、秋には互いの大学祭で募金活動や被災地支援グッズ販売を行い、活動を継続する意義を互いに再確認することができました。

被災地復興支援のボランティア活動が、被災地の方々との深い「心のキャッチボール」の機会を開き、また、こうした新しい交わりをもたらして、広がり、深まりながら継続していることに、感謝いたします。

大学間連携共同教育推進事業

「保育コンソーシアムあいち」

「保育系学生正課外活動調査プロジェクト」報告

保育コンソーシアムあいちにおける学生間交流事業について報告いたします。この活動は柳城、桜花・名短、岡女・岡短の2大学、3短大の学生が協働して様々な行事を主体的に企画、立案、実行するものです。

昨年度は「学生交流合宿」、「スポーツ交流会」、「クリスマス交流会」子どもが喜ぶ「創作お菓子」、「合同就職ガイダンス」、「合同セミナー合宿&保育技術発表会」を実施しました。どの取組みもはじめは交流にぎこちなさがありましたが、そこは保育を目指す学生同士、打ち解けるのにはさほどの時間はかかりません。参加者の満足度はどの行事も非常に高いものとなりました。事後のアンケートからも裏付けられて

います。忙しい保育の学生生活の中においても、課外活動に積極的に取り組んでいる学生は、日頃の学習においても、就職活動においても非常に前向きです。そして、優秀な成績を収め、早々に内定をいただいています。更には保育現場においても中心となって活躍できる保育者へと成長しています。この取り組みは保育者として必要な保育実践力と人間関係を円滑に進めるためのコミュニケーション能力を向上させることが大きな狙いです。今年度も学生が楽しみながら保育者として成長できる取り組みを学生と共に考えこの事業をすすめていきたいと思いをします。



クリスマス交流会 2014.12.14 柳城にて



保育学生合同セミナー&保育技術の合同発表会 2015.3.7-8 桜花・名短にて

幼児教育研究所

活動再開の模索

所長 鬢柳久美子

幼児教育研究所、活動再開

2014年度から、幼児教育研究所の活動が再開されました。紙芝居プロジェクトは、研究所跡からたくさん紙芝居が発掘されたことがきっかけとなって、2005年に立ち上げられました。保育紙芝居の学術研究を進めて紙芝居の情報センターを目指すことを目的としてきましたので、研究所再建の中心的な役割を担うことになりました。かつてのような施設があるわけではなく、201教室をキッズルームに改修しての始動です。幼児教育研究所委員会が定例の委員会として位置づけられ、当面はこれまでの活動を手堅く実施し、現代社会のニーズに合わせた研究所を模索しています。

紙芝居プロジェクトは、具体的には、「キッズ紙芝居コンテスト」「紙芝居の会」「紙芝居・ネット」運営管理、昭和生涯学習センターとの共催子育て支援講座「こんにちはおかちゃん」等を実施してきました。そこに、社会福祉協議会との共催で開始された子育てサロン「タンポポククラブ」や保健所主催の子育てサロン「プチトマト」等を含ませて実施するための運営が、当委員会の主要な課題となりました。

日本子ども社会学会でのラウンドテーブル

紙芝居プロジェクトが10年目となったのを機に、



キッズ紙芝居コンテストのチラシ

開設以来8年が経過し、昨今のネット事情からは古さを感じる部分が出てきました。最近のメディアからはアクセスしにくい問題も出てきましたので、2015年度には使いやすいものに改修していくことになりました。

「紙芝居 ネット」の改修

児童文化、総合演習で作成した手作り紙芝居13点を応募しました。質の高い手作り紙芝居を作成したことから、昨年同様「特別団体賞」をいただきました。紙芝居作りが学生の間に根付くことを願い、修了礼拝の後に表彰式をし皆で称えました。

富山紙芝居コンクール

最優秀作品は、5歳の橋本和花さんの「にやんにやんのおさんぼ」でした。いつも観客のほうを向いているネコの安定した構図が印象的な作品です。附属三好丘聖マーガレット幼稚園、豊田幼稚園の5人の園児さんも努力賞を受賞され、表彰式にも参加してくれました。



キッズルームでの活動風景

が強められ、研究の発展に期待が寄せられています。

キッズ紙芝居コンテスト(第8回)

保育紙芝居の学術研究を推進することを目的し、全国の紙芝居研究者の交流の場としてラウンドテーブルを開催しました。ここでの議論をもとに、研究者のネットワーク

学外合同ゼミナール「夢ゼミ」

平成27年度の1・2年生学外合同ゼミナール「夢ゼミ」は4月23日から1泊2日にて愛知県伊良湖町のホテル伊良湖シーパーク&スパを借り切って行われました。今年の4月は雨天の日が多く、夢ゼミも雨になることを想定して事前に体育館も予約し学生会を中心に計画も練っていました。ところが夢ゼミ直前からまるで梅雨が明けたかのごとく晴天になり、念願の砂浜での砂の造形を行うことができました。学生たちは学年を超えて仲間と一緒に心を一つにして作業を行い、その喜びを享



みんなで一緒に砂の造形

「学士の学位授与に係る特例適用の認定」についての報告

専攻科保育専攻主任 荻原はるみ

本学の専攻科保育専攻は1997年の設置当初から、専攻科のうち独立行政法人大学評価・学位授与機構が定める要件を満たした「認定専攻科」としてスタートし、きめ細かな個別指導により学士(教育学)の取得率100%の実績を積み上げています。また就職に関しても、幼稚園教諭1種免許を取得したうえで、本学の附属幼稚園、公立保育園をはじめ保育現場へ優秀な保育者を送り出してきたり、就職率も100%、さらに高度な専門知識を深め広げるために大学院へ進学した学生もいます。

このような実績の中、2015年度からは「認定専攻科」の中でも学士の学位授与申請における特例が適用される「特例適用専攻科」としても認定されました。特例適用とは、専攻の基礎となる短期大学2年間を含めて学士課程4年間に相当する質を保証すると認められた専攻科に対し、従来



講演会での手あそび

興味深い大切なお話をさせて頂きました。学生たちは講演の内容をもとに翌日の討論会で、それぞれが自分の意見を発言し問題意識を共有し、グループごとに結論を導き出して発表も行いました。「新人生歓迎会」ではクラブ紹介から始まり、1年生のクラス発表と2年生の「りゅうじょうあるある」では大変盛り上がりました。柳城生のこの素晴らしい人間力は、このような人と人との関わりや活動にて見ることができると、改めて感じ入った夢ゼミでした。

受することができました。初日の講演では、けやきの木保育園園長の平松知子先生をお招きしました。「大切にされた子どもはやがて人を大切にする大人になる」を題目として大変に

の個人を対象に個別審査を行う方式ではなく、専攻科単位で審査を行い学士の学位を認定するものです。特例適用の認定を受ける要件として、専攻科認定規則第9条に規定する教育の実施状況等の審査において適と判定されていること、学修総まとめ科目が設置されており当該専攻科の修了要件とされていること、専任指導教員は大学設置基準の定める資格を有し自らが研究に携わり、学修総まとめ科目の主旨に基づく教育指導を行う能力を有していること、等の厳しい審査基準が設けられています。本学の専攻科保育専攻はこれらの要件を十分満たしており、このたび合格をいただくことができました。

今後専攻科の2年間で保育を極める2年間となるよう、全教員が一丸となって専攻科学生の研究サポートを行っていきます。保育科の学生の皆様には「さらに学びを深め保育を極める道」として、また卒業生の皆様には「リカレント教育への道」として、本学の専攻科保育専攻への入学をお待ちしています。

2014年度 就職状況

**社会の要請に応える質の高い保育者を養成！
就職内定率100%達成！**

「柳城での学生生活は大変でしたが、やり切ることができて、大きな達成感と自信を得ることができました！」昨年度の卒業式の際、このような言葉を多くの学生から聞くことができました。

そのような好条件の中でも甘えることなく、就職活動に一生懸命取り組みました。求人数の増加は、待機児童対策により多数の保育園が開園したことも一因と思われませんが、「柳城は質の高い保育者を育てている」との評価を多くの現場の先生方からいただいていることも大きな要因です。

2014年度は保育科、専攻科保育専攻、専攻科介護福祉専攻合わせて226名が卒業・修了しました。そのうち191名が就職を希望し全員無事に就職することができました。そして、95%以上の学生が保育・介護職に就き、ほとんどが正規採用となっています。

昨年度も柳城への求人数は大幅に増えました。特に保育園の求人数が前年比177件増の828件と大幅に増えていきます。併せて幼稚園、児童養護、老人、障がい者等を含めた施設からの求人数も増加して1700件以上の求人数となりました。大変ありがたい状況に感謝です。しかし、学生はこ

のような好条件の中でも甘えることなく、就職活動に一生懸命取り組みました。求人数の増加は、待機児童対策により多数の保育園が開園したことも一因と思われませんが、「柳城は質の高い保育者を育てている」との評価を多くの現場の先生方からいただいていることも大きな要因です。

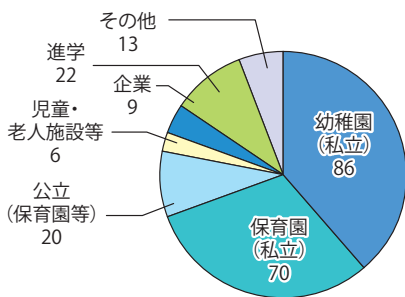
少子高齢化や女性の社会進出の進む現状において保育者、介護者への期待は益々高まるばかりです。しかし、そこには保護者や家族が安心して任せることにできる保育・介護の質の維持、向上が必要不可欠となります。保育・介護の仕事は子どもやお年寄り、障がい者と関わるのが好きというだけではやっていけないことは言うまでもありません。必要な知識、実践力、コミュニケーション能力等、多くを学生のうちに身につけなければなりません。従って授業はどうしても過密になります。だからこそ、多くの卒業生から聞かれる冒頭の言葉に感激します。

今後も様々な困難があるかとは思いますが、学生時代に得た自信を糧に乗り越え、社会人として充実した人生を歩んでもらうことを願ってやみません。

2015年3月31日現在

	卒業生数(人)	就職希望者(人)	就職率(%)	進学者(人)	就職希望なし(人)
保育科	210人	176人	100%	22人	12人
専攻科					
保育専攻	5人	5人	100%	0人	0人
介護福祉専攻	11人	10人	100%	0人	1人
計	226人	191人	100%	22人	13人

DATA 2014年度卒業生 226人



就職課では卒業生に対する再就職の斡旋を行っております。現在、柳城には幼稚園、保育所から大変多くの求人依頼が届いております。再就職をお考えの方は就職課までお気軽にご相談ください。お電話でもメールでも受け付けます。なお、柳城のホームページに詳細を載せております。登録いただくための求職票様式のデータもアップしてあります。是非ご利用ください。
就職課直通ダイヤル 052-848-8291
E-メールアドレス syusyoku@ryujo.ac.jp

マーガレット・ヤング基金のご報告

2011年度よりスタートいたしました『マーガレット・ヤング基金』への皆様のご寄附は、昨年度の55件(1,163,500円)を加え、総額で約500万円となりました。昨年度より学内では将来計画についての議論を盛んに行っておりまして、その中で、基金を用いた学内整備、学生支援の充実も検討してまいります。これからも基金への更なるご協力をお願いいたします。

博士學位取得

高瀬 慎二 准教授

中央大学大学院心理学研究科にて博士(心理学)取得(2013年4月)

■学位論文タイトル…知覚的抑制下での両眼情報の処理過程

■論文概要…視覚刺激が知覚的に見えなくなったときに両眼情報などのように処理されているのかを心理物理学的な実験を含め、系統だてで解明した。

柴田 益江 教授

金城学院大学大学院博士課程人間生活学専攻にて博士(学術)取得(2014年9月)

■学位論文タイトル…高齢者虐待の要因についての研究

■論文概要…アンケート調査や聞き取り調査から、高齢者虐待が深刻化する要因を考察し、自治体などのような対策が必要なのか具体的な施策を提案した。

全国保育士養成協議会 会長より表彰

尾上 明子 特任教授

永年にわたり保育士養成事業の発展に寄与し、顕著な功績があった教職員に送られる、平成26年度

全国保育士養成協議会教職員表彰を、尾上明子特任教授が受賞されました。

本学としてもたいへん栄誉なことであり、ここに報告するとともに心からお喜びを申し上げます。

2016年度 入試情報

2015年度 入試結果

保育科150名、専攻科保育専攻8名、専攻科介護福祉専攻15名の新入生が入学しました。

この状況は、本学にとつて、非常に厳しい入試結果でした。高校生の四大志向や短期大学の競合など厳しい外部環境の中で、本学が次年度に向けて目指すべき最善の方策は、全教職員一丸となって、学生の満足度をより高め、受験生のニーズに応え得るような大学作りを押し進めることだと考えます。

本学は今年で117年を迎え、歴史と伝統に基づく教育内容や学習支援が、社会に認められていると信じております。また、実習先や就職先の園長先生からは、「柳城生はまじめで明るく素直」、「保育に取り組む姿勢が良い」、「保育の内容を豊かに受けとめることのできる基礎的な力を持っている」などと高い評価をいただいております。

今後におきましても、歴史に甘んじることなく更なる本学の教育の質の向上、学生本意の教育や施設・設備の充実を目指してゆきます。保育、介護福祉への進学を希望される方がお見え

でしたら、是非、本学への受験をお勧めいただければと思います。

2016年度入試概要

本学の入学試験には、公募制推薦A入試(専願)、公募制推薦B入試(併願)、AO入試、一般A入試、一般B入試、一般C入試、社会人対象等の特別選抜入試、特別推薦入試の試験があります。この中の特別推薦入試には、「同窓生推薦入試」と「キリスト教会推薦入試」が含まれています。まず、「同窓生推薦入試」は、本学を卒業されたお方のお子様、お孫様、ごきよ

うだいを推薦していただく入試です。特にこの入試は、合格者の中から上位3名の方に対して、入学金が免除される特典があります。次に「キリスト教会推薦入試」ですが、「同窓生推薦入試」と同様に、合格者の中から上位3名の方を対象に入学金が免除されます。このように本学は、多様な入試を実施しておりますので、自分に合った入試を選んでください。入試広報課では、入試に関する相談やお問い合わせを行っています。お気軽にお電話ください。(入試広報課)

2016年度入学試験日程

試験区分	募集人員	出願期間	入学試験日	合格通知発表日	
推薦試験	公募制推薦A入学試験(専願)	50	2015年9月28日(月)～10月9日(金)	10月17日(土)	10月21日(水)
	公募制推薦B入学試験(併願)	25	2015年10月26日(月)～11月6日(金)	11月14日(土)	11月18日(水)
AO入学試験	25	願書等提出期間	2015年8月24日(月)～9月4日(金)	(一次) 9月12日(土)	9月25日(金)
		調査書・課題等提出期間	2015年9月7日(月)～9月11日(金)	(二次) 9月19日(土)	
一般A入学試験	35	2016年1月7日(木)～1月20日(水)	1月27日(水)	1月30日(土)	
一般B入学試験	25	2016年1月7日(木)～1月21日(木)	1月28日(木)	1月30日(土)	
一般C入学試験	5	2016年2月12日(金)～2月24日(水)	3月3日(木)	3月5日(土)	
特別選抜	社会人入学試験	若干名	2016年1月7日(木)～1月20日(水)	1月27日(水)	1月30日(土)
	帰国生徒入学試験	若干名	2015年9月28日(月)～10月9日(金)	10月17日(土)	10月21日(水)
	私費外国人留学生入学試験	若干名	2016年1月7日(木)～1月20日(水)	1月27日(水)	1月30日(土)
特別推薦	指定校推薦入学試験	35	2015年10月19日(月)～10月30日(金)	11月7日(土)	11月11日(水)
	キリスト教会推薦入学試験	若干名	2015年9月28日(月)～10月9日(金)	10月17日(土)	10月21日(水)
	同窓生推薦入学試験	若干名	2015年9月28日(月)～10月9日(金)	10月17日(土)	10月21日(水)

学院人事

2015年3月31日付

〔退職〕

教 授 野々垣文成

准教授 横井 志保

准教授 榊原 博美

特任教授 成田 朋子

〔幼稚園〕

柳城幼稚園

教 諭 青木 万莉

豊田幼稚園

教 諭 熊澤優梨亜

2015年5月31日付

〔退職〕

〔幼稚園〕

三好丘聖マリアレット幼稚園

教 諭 大井 祥子

2014年10月1日付

〔採用〕

〔幼稚園〕

助 教 山本 聡子

2014年10月15日付

〔採用〕

〔幼稚園〕

職 員 神戸 厚(総務課)

2015年4月1日付

〔就任〕

名譽学長 田浦 武雄

名誉教授 成田 朋子

副学長 菊地 伸二

〔昇任〕

〔短大〕

教 授 村田 康常

教 授 野田さとみ

准教授 水落 洋志

〔採用〕

〔短大〕

教 授 浅倉 恵子

准教授 片山 伸子

特任教授 野々垣文成

職員 水谷 香穂(経理課)

〔幼稚園〕

柳城幼稚園

教 諭 加藤 雅子

教 諭 加藤 惟奈

豊田幼稚園

教 諭 織田 亮平

教 諭 長江まどか

三好丘聖マリアレット幼稚園

教 諭 寺野 晴香

教 諭 山田 萌

教 諭 柴田ともみ

〔異動〕

〔幼稚園〕

教 諭 眞野亜里紗(附属豊田幼稚園)

2015年6月1日付

〔採用〕

〔短大〕

職 員 中村 博文(就職課長)

〔異動〕

〔短大〕

職 員 大澤 弘毅(入試広報課長)

職 員 高橋 達也(入試広報課補佐)

〔法人〕

職 員 佐藤 章裕(法人事務局係長)

役員人事

理事・監事理事長

理事 波澤 一郎

理事 伊藤 秀章

理事 伊藤 尚子氏

理事 関野 侯子氏

理事 松本 英行

理事 田中 誠氏

理事 松本 勝氏

理事 野村 潔氏

理事 池田 正毅

理事 長縄 年延

理事 野村 潔

理事 塚田 一宣

理事 日野 忠市

評議員 波澤 一郎氏

新海 英行氏

伊藤 秀章氏

岡野 尚子氏

関野 侯子氏

田中 誠氏

野村 潔氏

野々垣文成氏

平松ちづ代氏

松本 勝氏

宮澤 俊夫氏

諸岡 伸二氏

渡邊 信子氏

中川由希子氏

金子 明恵氏

後援会 News

後援会 会長あいさつ

本年度後援会会長を務めさせて頂くことになりました中川と申します。娘が入学してはや1年。姉（本学でお世話になり、保育士をしております。）を見ていたので、2年間「大変そうだな。」と覚悟はしていたかと思われませんが、実際始まってみて授業はびっしり、課題、ピアノと大忙しの日々。そして、実習。「緊張して寝れない。」と聞いて、私の方がドキドキで送りだしました。帰ってきて、「子どもたちかわいかった〜」「たのしかった〜」聞いて、ホッと心安心。実習の前にしつかり先生方の指導をして頂いたおかげだな。と実感。時には、厳しく時には、やさしく指導して下さる先生方に恵まれたことに感謝。学生のみなさんが、この柳城で学んで、巣立っていくのを心から願っております。

11月には、「柳城祭」があります。是非、見にきてください。



中川由希子

学生たちが、生き生き楽しんでいるのが、見えますよ。若いパワーをわけてもらいましょう!! 微力ながら大学のお手伝いができれば...と思っております。1年間、よろしくお願い致します。

◆後援会役員 (敬称略・順不同)

会長	中川由希子	2年
副会長	金子 明恵	1年
会計監査委員	鯛部こずえ	2年
会計監査委員	中川 眞紀	1年
	磯崎 純子	2年
	鈴木 好子	2年
	倉澤 一美	2年
	齊藤さつき	2年
	伊藤みゆき	2年
	寺本規公美	2年
	熊谷 克予	1年
	福井ゆかり	1年
	鳥越 啓子	1年
	奥田 宏美	1年
	北岡 康子	1年
	林 久美子	1年

◆大学教職員	顧問	新海 英行 (学 長)
	幹事	松下 明生 (准教授)
	幹事	山脇 真弓 (准教授)
事務担当		細川 領 (教務課員)

同窓会 News

のぞみの会 会長



鎮旗 真弓

みなさま、お元気でいらっしゃいますか？
今年も3月に「東日本大震災」のために、同窓会のぞみの会から送金させていただきました。

みなさまもご存知のように、震災直後には日本中、世界中の人々が心を痛め「義援金」「支援金」として、たくさんのお金を被災地へ送り、復旧工事の経費、また被災された方々の食費・生活費として使われていましたが、現在はどうでしょう。

テレビや新聞でも、大震災関連のニュースをあまり目にしなくなってきましたが、いまだ原発を中心としたある範囲には人が住めず、元々酪農を営んでいた方々は家族同然であった牛たちと涙とともに別れ、農業を営んでいた方々の田畑は無残に荒れ果て、漁業を営んでいた方々は今なお風評被害に苦しんでおられます。仮設住宅に住み、住んでいた町に帰ること

なく亡くなってしまうお年寄り、子どもたちの健康も心配です...。被災された方は、何よりも世間の人たちの関心が薄れていくことが悲しいのだと、よく耳にします。今、同窓会から送られたお金は「日本聖公会」を通じて「一緒に歩こう！」プロジェクトに使われています。今も続いている被災地の戦いに我々も寄り添い、一緒に歩んでいきたいと思えます。

◆のぞみの会関東支部

はならない大切なことがあったのだと思うようになりました。何事もスピードが求められ、ゆとりのない時代、特に留意が必要です。低年齢の犯罪のニュースを見るにつけ気持ちがいじまいます。

学生時代に「幼児期は特別に大切な時期」であると学びました。その頃には生活習慣を身につけるなどしつけをする事のように理解していたのですが、今幼児の本当に大切なことはその時期の心の要求を満たしてやる事ではないかと思ってしまうようになりました。甘い経験したい等幼児期にしなくて

のぞみの会関東支部は、2014年10月20日東京亀有の葛飾学園に於いて行いました。参加されたかたは12人でした。保育を参観させて頂いた後、ケアハウスの一部屋もお借りし、同窓会を行いました。今回は葛飾学園理事長、山口千晴氏に講演をお願い致しました。学園は大正5年に、先代山口信太郎司祭が、貧民伝道を目的に発足しました。当時の保育日誌、会計簿、献立簿が残されており、幼児教育への熱意を知りました。長年苦難を乗り越え続けてこられたのは、神の見守りと励まし、そして人々のご支援のお蔭と、おっしゃっておられました。

4年間会長を務めさせて頂きましたが、次期会長を青木洋子さんが引き受けて下さり、早速同窓会を3月26日、横浜ローズホテルに於いて開いて下さいました。そのご報告は追ってあると思います。

4年間ご協力頂きました事御礼申し上げます。これからも、のぞみの会をお支えください。

附属柳城幼稚園



日々の保育をふり返る時間になっています。どんなときでも、神さまが共にいてくださることを自然に受け入れている子どもたちとの毎日の出会いに感謝し、ひとりひとりを大切にしたい保育をしていきたいと思っています。

(主任 鍋谷 貴子)

年長「青組」

さわやかな風が吹き、戸外遊びにはぴったりの季節となりました。子どもたちは花壇やプランターの下を探して、ダンゴムシやミミズなどの虫を見つけては喜んで遊んでいます。「氷おに」などの集団遊びをしても、汗をかきながら走り回っています。

園庭の桜の花が満開の中、新しい子どもたちと保育者を与えられ、新年度が始まりました。昨年より、合同礼拝を週に一度、隣のマルコ教会で行っています。今年も赤組さんの手をしっかりとそして優しく握って、青組さんが教会に連れていってくれています。教会で神さまとお話をする時間を、子どもたちは、その時の気持ちをありのままの姿で現しながら、礼拝に参加します。時にさわわたり、穏やかな歌声で讃美歌を歌ったりと、一年を通して、さまざまな姿を見せています。私たち保育者は、その子どもたちの姿からいろいろな気づきを与えられ、祈りを通して、子どもたちがひとつになる姿と出会いながら、

先日は、朝から雨が降り、子どもたちがとても残念そうでしたので、「神様にお祈りしよう!」と、皆で天気になるようにお祈りをしました。すると、午後からお日様が見えてきたのです。神様が子どもたちの素直な気持ちを受けとめ、見守ってくださいのだと思います。このようなことを、子どもたちにも感じてもらえるような保育をしていきたいと思っています。これか



いちょうの木



年長キャロリング



朝のリズム体操



積み木あそび

ら1年間、年長組ならではの楽しい毎日を笑顔で過ごしていきたいです。

年長(青組) 担任 桑原 奈津

年中「黄組」

今年度の年中組保育室は、36人のかわいい子どもたちの明るく賑やかな声が響いています。園庭で遊ぶことが何よりも大好きな子どもたちは、様々な遊びを展開して探しをしたり、木のテーブルの上でごちそうを作って、友だちや保育者を招待して振る舞ったり、ひたすら虫探しをして虫の食べ物を真剣に考えたりと、子どもの発想は豊かです。36人の子どもたちとの一日一日を大切に、幼少期にしか経験することのできないことを、ともに経験していきたいです。そして、一人ひとりの子どもたちが家族や友だち、保育者に愛

されている喜びを感じながら成長する1年間にしていきたいと思っています。

年中(黄組) 担任 八島 麻衣

年少「赤組」

一人ひとりが様々な思いを抱えて、年少赤組には27名の子どもたちが新入・進級してまいりました。緊張した表情も少しずつ和らぎが見られ、元気いっぱい遊ぶ姿が見られ始めました。外で遊ぶのが大好きな子ども達は、登園後やお昼を食べた後も、日に日に暑さが増す中でも、走って外に駆けていきます。また少しずつ、「後で一緒に遊ぼう!」「一緒におまごとしよう!」と声を掛け合い、約束を交わす姿に友達への関心が見られ、なんだか嬉しく感じる日々です。年少担任としてこの1年、嬉しい事も、悲しい事も子どもたちと共に、様々な事を経験していきたいと思っています。一歩ずつ大き

くなる子どもたちの姿を近くで見守り、一日一日を大切に過ごしていきたいです。

年少組(赤組) 担任 伊藤 沙恵

満3歳児「桃組」

今年度の桃組は、5月からのスタートとなりました。子どもたちにとって、初めてお母さんから離れての集団生活となる桃組。きっと、戸惑うこともあると思いますが、お友だちやお兄さんお姉さんと共に過ごす中でたくさんの経験をし、発見しながら、笑顔いっぱいの毎日となっております。欲しいと思います。そして、これから先、桃組に入園してくる新しい仲間との出会いを大切に、人と関わることの楽しさ、共に歩む喜びを感じられるように、子どもたちを見守り育てていきたいと思っています。

満3歳児(桃組)

担任 加藤 雅子



年長児

憧れの《年長さん》になれた喜びで、子どもたちは意欲満々。

年長の自覚(?)として、『気付く・自分で考える・やってみる』の体験を重視しています。

一例として、母の日に因んでお母さんの似顔絵を描いた時の事。個人持ち絵の具を使えることであって、子どもたちは集中して制作に取り組みました。使う色の絵の具をパレットに慎重に出し、それはそれは丁寧に塗っていきます。はみ出さないように筆の持ち方を工夫したり、力を加減して細く塗ろうとする等、気付いて、考え、やってみる姿があらこちらで見受けられたのです。こうして完成したお母さんの似顔絵でしたが、子どもたちは「これでヨシッ!」という満足しきった表情になっていました。

子どもたちが自分の可能性を信じ、自分が持っている力を十分に発揮し、その力を友だちや大切な人を助けたり支えたりする事にも使えるように、それが平和な世界を実現する力になりますように!

年長クラス担当 福田 梨英

年中児

「やりたい!」気持ちがいっぱいの年中児。毎日の当番活動からも、その気持ちが伝わって来ます。

手鏡を家庭から持参し、鏡に

映った自分の顔を覗き込みながら似顔絵を描き、「当番表」を完成させました。当番表を順番に重ねていくと、早速、「明日のお当番は誰かなあ」の声。自分の番が来ることを心待ちにしている様子。

当番の日、当番バッジを肩に付けていると、色々な友だちや先生から声を掛けられます。「今日、お当番さんなの? 頑張ってるね!」。「そうだよ!」と答える姿はどこか誇らしげです。

当番の仕事は、朝の会や給食の前後に



年長児「ダンゴ虫、ここならいるよ!」
年少児「本当だ、すごいね~!」



年中児当番「金魚さん、ゴハンだよ~!」



年長児「…ん? …お!? …あ! 見つけた! お気に入りの色」



満3歳児「もしも~し!」(左)
年少児「でんわだよ~!!」(右)

皆の前でお祈りする事、欠席票を職員室に届ける事、金魚に餌をやる事、そして、クラスのプランターの野菜や花の水やり等。

緊張しつつも、二人のお当番が励まし合って声を出したり、餌を金魚がちゃんと食べているかどうか確認する姿には感心します。誰かの為に自分の力を使うことを喜べる子どもたちなのです。

年中クラス担当 眞野 亜里紗

年少児

満3歳児クラスから進級した23名と、今年度入園の50名が出会い、交わり、仲間との生活を、日々楽しんでいきます。

子どもたちのやわらかい心は、「嬉しい!」「楽しい!」「面白い!」等を見つけるのが得意。自分で身支度が出来た時、きれいな花やアリの巣を発見した時、友だちと一

緒に遊んだ時、自分のやりたい遊びが出来た時、等等…心からの感動を子どもたちは全身で表現しています。

年少組は今年度も、決まった曜日に、室内外どちらでも、自分取る力、発想力、判断力、集中力や根気など、子どもの内にある素晴らしい力が発揮されますように。

こうして心満たされる体験が、自分を大切にした時、周りの人を大切に思う心のエネルギーを強めることになると思っています。

年少クラス担当 磯貝 早智子

満3歳児

入園したばかりの満3歳児に、園生活の様々な事を教えてくれるのは、お兄さんやお姉さんたちです。すごい!と感動の表情で年上の子どもをする事を見つめてい

る満3歳児が、次の時には同じようにしようとしています。何日か経つと、身支度もスムーズに。大好きな外遊びがタツプリできます。

園庭でも、お兄さんやお姉さんとの関わりから多くの体験や喜びが生まれています。三輪車に乗せてもらったり、砂場でご馳走をもらったり、片付けの仕方なども教わりました。そうして、これらの

体験が、同じクラスの友だちとの仲間づくりにつながっていくようです。一緒に見つけて嬉しい!一緒に触って気持ちいい! 沢山見つけた時には「ひとつあげる」とおすそ分け。虫や石や葉っぱ等、

自然物が大好きな仲間同士のやりとりが日常的に見られます。園生活の中で人や神様や環境、そして、自分自身との豊かな出会いが大きな喜びになりますように!

満3歳クラス担当 阪下 起子



年長組

年長児は年間を通じて、交流会、福祉施設訪問、野外活動、命の授業などたくさん体験活動があります。その中の一つ、今年度初めて「ピオトープ」(生物の生息空間)へ出かけました。メダカやそこにいる虫、花を見て夢中になって観察し、子ども達の顔は笑顔であふれていました。ピオトープに行った後に、思いでの絵を描いてたくさん発見や楽しかった思い出を表現しました。この体験を通じて、生き物は環境との関わりの中で生きていることを、五感を通して学び、自分も様々な関わりの中で生きていくことに気づける体験になってほしいと願います。又野菜や植物を種から育て、「まだ

芽がでない」「あつー！芽が出てきたよ！」とその成長を楽しみに世話をしています。

幼稚園で一番大きいお兄さん、お姉さんになり、小さいお友達のお手伝いをする姿や、三輪車の後ろに乗せてあげる姿、大きな山と一緒に作る姿にたくましさを感じます。

年中組

今年の4月は雨の日が多く進級当初は室内ばかりでした。ようやく晴れたある日、子ども達は園庭を走り回りふと花壇に目をやり満開に咲いているパンジーの鮮やかな色に驚いていました。新しい学年に戸惑っていた子どもも「私は白色が好き」「ぼくは紫色」などと言いつつ花壇に集まっています。そしてパンジーの根元にアリの巣発見。小さなアリたちが虫の死がいや何かを巣に運んでいました。ずっと見守る子ども達。そして次の日はまた雨降りです。翌日午後やっと晴れに。「アリの巣大丈夫だったよ。先生！」真つ先に走った男の子が報告してくれました。「ずっと心配だったんだね。よかったね。教えてくれてありがとう」すぐに他の子ども達にも伝えました。

小さなアリの「いのち」は見逃してしまっただけで、子ども達と一緒に「いのちを感じる」とができました。

年少組

幼稚園の生活にもすっかり慣れ、毎日元気いっぱい遊んでいる子どもたち。クッキングや制作遊びなど初めての体験を楽しんでいます。5月初旬にはミニトマトの苗を植え、みんなで大切に育てています。『おおきくなーれ！』と声をかける姿はとても微笑ましく、小さな実がなった時はみんな大喜びでした。

今年度からは満3歳児保育が年少との混合クラスで始まりました。新しいお友達との出会いに、年少組の子どもたちも大喜び。手をつないで遊びに連れて行ってあげたり一緒に給食を食べようと誘ったりとすっかり仲良しになりました。その様子は4月の年長年中組の姿にそっくりでした。自分たちがしてもらって嬉しかった事を今度は誰かにしてあげる、そんな優しい心が自然と育っているのかなと感じました。この先も、たくさんのお出合いを通して成長していきたいと思えます。

2歳児教室

初めて親元を離れ、週に2回、幼稚園で過ごします。幼稚園には、新しい発見がいっぱい。外で大きな滑り台を滑ってみたら、とつても風が気持ちよくて、1人では不安だった子も先生やお友だちと滑ってみると、「楽しいー」の声が届いてきます。「もう1回」と上り、寄り道して滑り台の上のデッキへ行き「やっほー」と叫んでみると、下にいるお友だちから「やっほー」と山びこが返って

てきます。幼稚園には沢山のお友だちがいるからこそ楽しみ方です。お砂遊びでは、大きな山を作ったり、カップやお皿に山盛りのごちそうをつくらしたり...3学期になると「パーティーするよ」と友だちを誘って、みんなで楽しむ姿が見られました。「みんなで過ごすの楽しいね」そんな気持ちもあふれて、とあって保育しています。今年度も入会式を終え、新しいお友だちが沢山入会してくれました。友だちとの生活の中で、どんな「わくわく」「ドキドキ」を発見するかな？



年中組



年長組



2歳児教室



年少組

2014年度 会計報告

資金収支状況

(単位：千円)

	科目	2013年	2014年
収入の部	学生生徒等納付金収入	624,407	586,908
	手数料収入	13,355	11,105
	寄付金収入	9,014	12,969
	補助金収入	330,652	242,484
	資産運用収入	5,075	5,669
	資産売却収入	1,014,036	1,013,138
	事業収入	44,156	42,510
	雑収入	2,190	33,910
	前受金収入	63,810	58,777
	その他の収入	42,654	112,979
	資金収入調整勘定	△ 182,296	△ 106,050
	前年度繰越支払資金	1,398,507	1,375,147
	収入の部合計	3,365,560	3,389,551
支出の部	人件費支出	481,770	531,786
	教育研究経費支出	170,926	171,808
	管理経費支出	59,865	53,516
	借入金等利息支出	952	797
	借入金等返済支出	9,270	9,270
	施設関係支出	240,971	2,063
	設備関係支出	14,792	17,649
	資産運用支出	1,013,647	1,013,129
	その他の支出	14,576	16,010
	資金支出調整勘定	△ 16,356	△ 14,635
	次年度繰越支払資金	1,375,147	1,588,155
	支出の部合計	3,365,560	3,389,551

〔2014年度決算概況〕

1. 資金収支状況：学生数、園児数の減少により「学生生徒等納付金」が減少しました。しかし、短大部門で前年に施工完了した3号館新築工事関係補助金が約1億9百万円、又2015年度の学納金の納付時期を3月下旬に早めた事による前受金が今年度資金として増加し、学院全体で大きな施設関係の支出がなかったため、次年度繰越資金としては、2億1千3百万円の増加となった。
2. 消費収支状況：帰属収入は学生数・園児数の減少により減少しましたが、「改革総合支援事業タイプI」の引き続きの採択により、補助金額が増額されており収入減を抑えている。当年度の消費収入超過額としては、8千万円となった。
3. 貸借対照表：総資産は、8千1百万円の増加となりました。流動資産の増加によるものが大きいです。

〔学院：帰属収支差額の経年変化〕

- 帰属収入：学生生徒等納付金、補助金などの学校法人の負債としない収入
- 消費支出：人件費、消耗品費、光熱水費などの消費する支出
- 帰属収支差額：帰属収入－消費支出。比率は高いほど、自己資本が充実していることを示す。少なくとも10%以上が望ましい。

消費収支状況

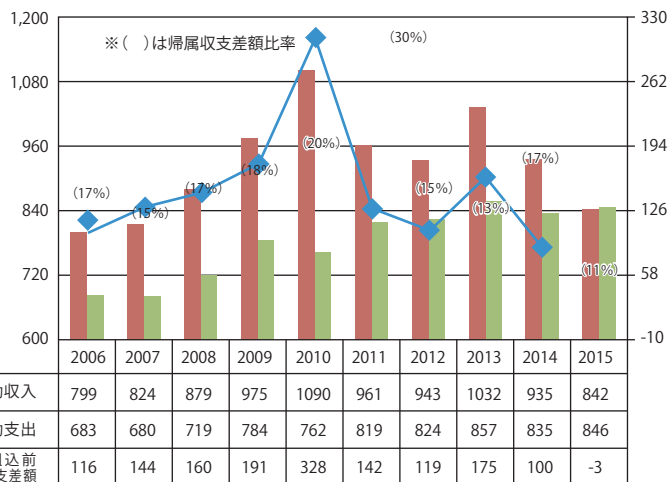
(単位：千円)

	科目	2013年	2014年
消費収入の部	学生生徒等納付金	624,407	586,908
	手数料	13,355	11,105
	寄付金	9,805	13,032
	補助金	330,652	242,484
	資産運用収入	5,075	5,669
	事業収入	44,156	42,510
	雑収入	4,849	33,910
	帰属収入合計	1,032,299	935,622
	基本金組入額合計	△ 219,630	△ 19,850
	消費収入の部合計	812,669	915,772
消費支出の部	人件費	481,524	527,014
	教育研究経費	242,882	250,848
	管理経費	61,945	55,683
	借入金等利息	952	797
	資産処分差額	70,016	1,037
	徴収不能引当金繰入額	0	0
	消費支出の部合計	857,319	835,381
	当年度消費収入超過額	0	80,390
	当年度消費支出超過額	44,650	0
	前年度繰越消費収入超過額	134,409	90,249
前年度繰越消費支出超過額	0	0	
基本金取崩額	491	226	
翌年度繰越消費収入超過額	90,249	170,866	
翌年度繰越消費支出超過額	0	0	

貸借対照表の推移

(単位：千円)

	科目	2013年	2014年
資産の部	固定資産	2,452,556	2,389,301
	流動資産	1,487,966	1,632,140
	(内、預金)	1,375,147	1,588,155
	資産の部 合計	3,940,522	4,021,441
負債の部	固定負債	185,437	171,395
	(内、借入金)	41,910	32,640
	流動負債	91,027	85,747
	負債の部 合計	276,464	257,142
基本金の部合計	3,573,809	3,593,432	
消費収支差額の部合計	90,249	170,866	
負債・基本金・および消費収支差額合計	3,940,522	4,021,441	



新任教職員紹介 就任にあたっての抱負

短期大学

◆短大 教授 浅倉 恵子
名古屋柳城 短期大学に赴任して1カ月半経ちました。この10年



は、福祉系の4年制大学の保育士・幼稚園教諭養成課程で教えていました。同じ保育士・幼稚園教諭養成課程でも、福祉科にある場合との違いは、学生の明るさ、活発さなのかなと思います。保育科の学生は活発で積極的な人が多いようです。4月の夢ゼミの夜のパフォー

マンズでは、その元気さ・迫力を見せてもらい、保育者の資質は充分備わっていると感じました。
ただその元気さだけで突っ走ると、子どもを引っぱりまわす保育になってしまうので、子どもの気持ちを理解した上で、子どもの興味・関心に沿った保育ができる人になってもらいたいと思います。今1年生の「教育実習法」を担当していますが、そのあたりを学習してもらえればと思っています。

◆短大 准教授 片山 伸子
本年度から専任教員として勤務することになりまして片山伸子です。1年生を



中心に発達心理学や教育心理学の講義を行っています。学生の皆さんには講義を通じて、子ども自身のもつ発達の可能性、自己を成長させようとする力に気づいて欲しいと思っています。

保育や介護という人に仕える仕事をを目指す学生が集まり学ぶ小さな学び舎

で、自分も学生に任せ、学生と共に成長していきたいと考えております。これからよろしくお願いいたします。

◆短大 助教授 山本 聡子
みなさまこんにちは。前年度9月よりお世話になっております山本です。優し



く導いてくださる教職員の皆様、学生さんたちのおかげで毎日頑張っています。今年度からは本格的に授業も担当することとなり、保育の楽しさが伝わる授業にしたいと試行錯誤中です。『目の前のひとつひとつのち（人）でも生き物でも、ものでも』の良さを知り、慈しむ『どうせやるなら何でも楽しく』が幼稚園時代からの私のモットーです。これからもどうぞよろしくお願

いいたします。
◆短大 就職課 中村 博文
今年度より短期大学就職課でお世話になりました。117年という歴史を誇る柳城学院で働かせていただくことを、大変光栄に思っております。卒業生、職員の方々が脈々と築いてきた柳城の伝統を守っていきたくと思っています。微々たる力ではありますが、学院の発展に少しでも寄与できるように精進してまいります。ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。



◆短大 総務課 神戸 厚
2014年10月15日より縁あって就

任させていた
できました。
前職は、この大学も担当させて頂きましたが、イン



学内のインフラ構成については、熟知していますので、インフラの経験を活かして①「現行インフラの保全」②「インフラ環境改善提案と実施」等を重点に総務の仕事を経験として、学院の力になれる様、精一杯、努力させていただきます所存です。

◆短大 経理課 水谷 香穂
昨年度は臨時職員として、今年度からは専任教員として、気持ち新たに名古屋柳城短期大学で働かせていただくこととなりました。
柳城に来て間もない頃、学生がとても熱心に授業を受ける姿を目にする機会がありました。
日々様々なことを学び、実践し、身に付けていこうと努力する柳城生に負けないようにしなければと、気が引き締まったことを思い出します。
初心を忘れることなく、勤めていきたいと思えます。皆様どうぞ、よろしくお願いいたします。



◆柳城幼稚園 教諭 加藤 雅奈
この度、柳城幼稚園でお世話になることになりました。私

は、子どもの気持ちを大切にできる保育者を目指しております。そのためにどんな時でも子どもの目線になって物事を考えたり、遊びを楽しんでいきたいです。子どもと心を通わせながら共に笑顔になれるよう日々努めていこうと思えます。そして、子どもたちと過ごす一日一日を大切に保育者として少しずつでも成長していけるようこれからも励んでいきたいです。

附属幼稚園

◆柳城幼稚園 教諭 加藤 雅子
今年度より新しく柳城幼稚園に勤めさせていただくことになりました。



初めて柳城幼稚園に伺った時、大きなイチョウの木に優しく見守られているような温もりを感じ、ここで子ども

たちと共に過ごしたいと思いました。子どもたちにとって、あの大きなイチョウの木のような温もりと安心できる場となれるように、しっかりと子どもたちと向き合っていきたいと思えます。たくさんの出会いに感謝し、私らしく頑張りたいと思います。

◆豊田幼稚園 教諭 長江まどか
私は年少クラスを担当として25名の子どもたちと毎日沢山の経験をする日々を過ごしています。子どもの気持ちをうまく汲み取ることが出来ず、落ち込むことは沢山あります。しかし、子どもの様々な姿が本当に励みになっています。特に子どもの笑顔は周りも自然と笑顔にするとてもすごいものだと感じています。
また保育をする上で周りの方々と協力すること、助け合うことの重要性に改めて気付きました。これからは周りの方々に対して常に感謝の気持ちをもち続けながら過ごしていきたいと改めて思いました。
子どもの命を預かるという責任の大きな職業ですが、「笑顔」と「感謝の気持ち」を大切にしていきながら、子どもたちと共に成長していきたいです。



◆豊田幼稚園 教諭 織田 亮平
の年長組担任として着任しました。担任として1カ月が過ぎ、まだ



◆柳城幼稚園 教諭 加藤 雅奈
この度、柳城幼稚園でお世話になることになりました。私

は、子どもの気持ちを大切にできる保育者を目指しております。そのためにどんな時でも子どもの目線になって物事を考えたり、遊びを楽しんでいきたいです。子どもと心を通わせながら共に笑顔になれるよう日々努めていこうと思えます。そして、子どもたちと過ごす一日一日を大切に保育者として少しずつでも成長していけるようこれからも励んでいきたいです。

◆豊田幼稚園 教諭 織田 亮平
の年長組担任として着任しました。担任として1カ月が過ぎ、まだ



◆三好丘聖マーガレット幼稚園 教諭 柴田ともみ
昨年9月より特任職員として勤めさせて頂き、キリスト教保育の中で、日常の



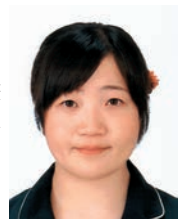
些細なことにも目を向け感謝することで、思いやりの気持ちが育っていくことを肌で感じました。そして、今年度より、専任教員として附属三好丘聖マーガレット幼稚園で勤めさせて頂くことになり、大変嬉しく思います。日々、当たり前に思ってしまうことにも感謝の気持ちを忘れず、子どもたちと幸せ探しをしながら、楽しい毎日を送りたいと思えます。よろしくお願

始まったばかりで右も左もわからないことが多いですが、先輩の先生方にアドバイスをいただく日々を送っています。少しずつではありますが、子どもたちのために何ができるか、子どもが楽しく生活するためにどういう環境を整えるかなどを考えています。これから1年間、子どもが自分で考えて行動しようとする自主性や、新しいことに挑戦する気持ちを育てよう見守り、応援をしていきます。またその中で、自分らしい保育を見つければと思います。

◆柳城幼稚園 教諭 加藤 雅子
今年度より新しく柳城幼稚園に勤めさせていただくことになりました。

初めて柳城幼稚園に伺った時、大きなイチョウの木に優しく見守られているような温もりを感じ、ここで子ども

◆三好丘聖マーガレット幼稚園



教諭 寺野 晴香

昨年まで、短期大学の学生でした。この4月からこの附属の園に就職し、憧れだった保育者になることができました。現在は、3歳児クラスの担任として入園してきた子どもたちと楽しい幼稚園生活を送っています。毎日が私にとって「はじめて」なことがばりです。しかし、子どもが安心して存在し、心を許せる存在でいられるよう、笑顔で子どもたちの全てを受け止めていきたいです。就任にあたり、子どもたちの小さな発見や気づきを日々の保育の中で大切にしていけるように努力していきたいです。

◆三好丘聖マーガレット幼稚園



教諭 山田 萌

この度名古屋柳城短期大学を卒業し、三好丘聖マーガレット幼稚園に勤めさせていただきます。念願の附属園の先生になりました。笑顔と元気をたくさんもらっています。そんな元気がいっぱいの子どもたちと一緒に私も成長していきたいとおもいます。先輩方のような保育者になれるよう一生懸命がんばります。

退職にあたって

◆短大 特任教諭 成田 明子

この3月末で特任教諭の任を終え定年退職いたしました。



18年の間、歴史ある柳城学院で充実した教員生活を送ることができ感謝の気持ち一杯です。今後は名古屋柳城短期大学名誉教授として、柳城学院の発展を祈りつつ、この世に生を受けたすべての子どもたちが健やかに成長すること、そのために子育てに価値を認められる世の中になることを願い、ささやかに社会と関わりを持ち続けていたいと思っています。

ありがとうございます、そしてこれからもよろしく願いました。ありがとうございました。

◆短大



准教授 横井 志保

短大、保育専攻の学生として、また教員として生活させていた柳城を、

ちようどトータル10年で巣立つ時が来ました。柳城では様々な経験をし、多くのことを学ばせていただきました。現在も、ご縁がありキリスト教主義の大学で教員をしています。建学の精神は「敬神愛人」。言葉通り、思いやり深く親切的な同僚、明るく素直な学生たちに囲まれ日々幸せを実感し、柳城での学びと生活があったお蔭と感謝の念に堪えません。

◆短大



准教授 榊原 博美

柳城短期大学でお世話になった5年間、「保育」中心にすえた活動に携わらせていただきつつ、建学の精神である「愛をもって伝えよ」の言葉の意味を自分なりに模索しながら実践でした。今退職にあたり、柳城で教鞭を執らせていただきながら自分

自身も学び、成長させていただけたことに心から感謝の気持ちで一杯です。学生たちや教職員の皆さまとは離れたがたい気持ちであり、今後も陰ながら柳城の発展を心よりお祈りしてまいります。

自身も学び、成長させていただけたことに心から感謝の気持ちで一杯です。学生たちや教職員の皆さまとは離れたがたい気持ちであり、今後も陰ながら柳城の発展を心よりお祈りしてまいります。

◆柳城幼稚園



教諭 青木 万莉

幼稚園のいちようの木に見守られ過ごした柳城幼稚園での時間は、人との出会いで溢れていました。学生生活を含め、実家を離れた9年間は、私にとつて挑戦の日々。保育者になったこともその一つでした。今思うと何度か悩んで失敗もして、でも、子どもたちとこんなことがしたい！と考えている時が一番楽しくてわくわくしました。そんな気持ちにさせてくれた子どもたちと支えて頂いた先生方、家族、友達に感謝です。いつまでも忘れません。

◆豊田幼稚園



教諭 熊澤優梨亜

この度、結婚を機に退職することになりました。私がこの幼稚園で過ごした時間は、大切な宝物です。子どもたちと出会い、たくさんの経験をし、発見や驚き、面白い等、様々な気持ちを共有でき、子どもと共に私自身もとても成長できました。また、職員間ではより良い保育をするために意見を出し合う中で、自分では思いつかないような考えを聞くことができました。たくさんの学びがありました。この幼稚園で働くことができ、子どもたち、保護者、同僚と出会うことができ、とても幸せでした。

柳城祭

2014年度の柳城祭は、「Popping Shower ～はじけるパワー～」をテーマに開催された。このテーマは、柳城生一人ひとりが持っている力を発揮し、輝けるような大学祭になるようにとの思いで決定した。開催日程は、例年通り、1日目が柳城生の為のお祭りとして外部公開はせず、2日目のみを一般公開とした。また、今年で第3回目の子どもフェスタも2日目に同時開催した。3日目には全学で学内清掃が実施された。様々な行事が重なる中で、学生はそれぞれが繋がりをもった行事と捉え、昨年よりもさらに良い大学祭となった。このような大学祭を経験することで無意識的に保育者の資質である人間力の育成に繋がっていると思われる。また、日常の学生生活とは異なる学生の表情が見られることは教職員にとっても学生の良さを見つかるいい機会になったと思われる。これからも本学にとってこのような大きなイベントを通して、学生の資質向上を目指したい。



りゅうじょう子どもフェスタ

11月の開催も3回目を迎えました。お天気に恵まれたこともあり、今年も体育館は子どもたちの声であふれました。造形表現、音楽表現、身体表現の3セクションの学生たちは、それぞれに参加する子どもたちが楽しめるようにと趣向を凝らした企画を考えました。造形表現セクションはキッズルーム全体を使った巨大迷路や描いたり作ったり一緒に遊んだりのコーナーを、音楽表現セクションは今年もオペレッタ「森は生きている」で美しい歌声を、身体表現セクションは「プレーメンの音楽隊」「スイミー」の劇、動物シルエットクイズやダンスなどを発表しました。どのセクションでも、子どもたちの楽しそうな反応の一つひとつが、学生たちのモチベーションを高め、達成感へと導いてくれたことは間違いありません。「子どもの笑顔を見るためなら全力で頑張れる」という、柳城生として学んだ手ごたえをしっかりと掴んでくれたのではないのでしょうか。



オープンキャンパスで 名古屋柳城短期大学を 体験してみよう!

本年度は、7月11日(土)、8月22日(土)、11月3日(祝)の3回、オープンキャンパスを開催します。

7月と8月は、入試内容についての説明、学生の体験発表、模擬講義、子どもの遊びやチャペル体験、相談コーナー等を、11月は学校祭と同時開催で、校内自由見学や個別相談を予定しています。また、7月はAO入試説明会、8月と11月は公募制推薦B入試対策講座を実施

します。さらに、保護者対象の説明会を開催していますので、保護者の方のお越しもお待ちしております。

当日は、本学の大勢の学生がお越しいただいた方々をサポートします。

柳城の明るいアットホームな雰囲気を肌で感じていただける絶好の機会です。保育を志す方々のお越しをお待ちしています。また、日曜、祝日以外ではいつでもご見学、ご相談に応じています。この「学校見学」の申し込みが、パソコンや携帯から本学のホームページにアクセスして24時間、いつでも申し込みが可能になりました。是非、活用して、お気軽にご来校ください。

(お問い合わせ先) 入試広報課 TEL:052-848-8281 (ダイヤルイン)

2015オープンキャンパス情報

見て・聞いて・話して・感じてください 柳城を!!

第2回

7月11日(土)

いずれも 13:00~16:00

第3回

8月22日(土)

第4回

11月3日(祝)

10:00~15:00

柳城祭
同時開催

主な当日の内容

- 学生の体験発表 (7月11日・8月22日実施)
- 模擬講義
- 造形あそび体験・紙芝居を楽しもう!
- 就職や入試、学生生活相談コーナー
- AO入試説明会(7月11日のみ実施)
- 公募制推薦B入試対策講座 (8月22日・11月3日実施)
- 保護者対象説明会 (7月11日・8月22日実施)

附属幼稚園情報

運動会

- 柳城幼稚園
10月17日(土) 雨天時は18日(日)
- 豊田幼稚園
10月10日(土) 雨天時は11日(日)
- 三好丘聖マーガレット幼稚園
10月10日(土) 雨天時は12日(日)

新入園児 お知らせ

- 入園説明会
柳城幼稚園 9月5日(土)
豊田幼稚園 9月10日(木)・9月12日(土)
三好丘聖マーガレット幼稚園 9月12日(土)

子育て 支援

- 入園願書配布
9月1日(火)~
 - 願書受付
10月1日(木)~
- 各園にて子育て支援事業に取り組んでいます。ぜひお問い合わせください。
- 柳城幼稚園 (052) 951-5080
 - 豊田幼稚園 (0565) 80-0198
 - 三好丘聖マーガレット幼稚園 (0561) 36-8373

同窓会情報

“のぞみの会”では、大学ホームページ内に専用ページを設けることになりました。大学への支援など同窓会としての取り組みを紹介させていただきます。

9月から随時、更新をまいりますので、ぜひご覧ください。

また、転居や結婚などによる改姓、住所変更などがあった場合には、こちらからお届けいただくことも可能ですのでご利用ください。



特別給付奨学金表彰式

平成25年度から施行された特別給付奨学金が本年度で3年目を迎えます。1年生学年末時の成績優秀者9名に給付型奨励奨学金が送られました。学業を頑張った学生が、在学生の模範となって欲しいとの思いで、全学生の前で表彰されます。表彰式は6月10日の合同礼拝の時に同時に行われました。表彰された学生は喜びを全身に表現しながら頑張った成果を実感し、これからの学生生活や就職活動への励みとなったことでしょう。

特別給付奨学金 1年次奨励奨学生(26生) 認定学生

9	8	7	6	5	4	3	2	1	学籍番号氏名
2	2	2	2	2	2	2	2	2	吉田 圭織
6	6	6	6	6	6	6	6	6	河路 彩華
D	D	B	D	C	D	B	A	5	堀町 佳世
1	3	1	1	2	3	4	1	7	不破重里紗
6	7	9	2	5	9	0		0	小川 美穂
									下村 結
									久米 彩愛
									深谷 友紀
									川口 茉耶